

リは、てい老上

編集発行：老上同和教育推進協議会

老上学区まちづくり協議会
老上西学区まちづくり協議会

草津市野路町 520
草津市矢橋町 526-1

TEL. 564-1430
TEL. 565-1995



♡ 人権発～幸せ行き ♡

老上同和教育推進協議会
会長 久米田 豊子

2026 年は 60 年に一度の『丙午(ひのえうま)』
力強さ、情熱、行動力そして変化や発展のある一年といわれて
います。

本年は、草津市町内学習懇談会 50 周年です。町内学習懇
談会は人と人とのつながりの中で、ともに学び、忙しい日々
に流されている自分を見つめ直す良い機会です。

『人々の幸せ♡』を目的としているのが『人権』です。
さまざまな差別、偏見、いじめ等を許さない『心』、
なくしていく『行動』、繰り返し続けていくことで
人権感覚を磨いてまいりましょう！



令和 7 年度 草津市人権作品

市人権センターが市内の園児・児童・
生徒・一般に募集し、総数 7,854 点
の応募の中から選ばれた当学区の作
品を紹介します。

🏆 優秀作品

ポスターの部

標語の部

🏆 最優秀作品



老上小学校 1年6組 下元 輪

「おかし」と
思う心と
言う勇氣

老上中学校 一年

前川 まえかわ
葉月 はつき

今回は、老上小学校の代表として選ばれた作文を紹介します。

モデル校園所報告

人権作文

第三保育所保護者と先生の会

みんながった良いところ

「みんながってみんないい ～一人一人が物語の主人公～」

老上小学校 3年 ^{おかだ}岡田 ^{ゆあ}羽愛

第三保育所ではテーマをもとに、部落差別をはじめあらゆる差別をなくすため、私たち大人が正しく知り、正しく学ぶことを大切に、地域の方々に協力していただきながら、事業を進めています。「子どもたちにしんどい思いをさせたくない」という思いは、親ならだれでも願うことです。今年度も「親同士が語り合う」ことを大切にしてきました。私たち一人一人がもつ無意識の偏見、知らず知らずに人と比べたり、否定したり……。子どもたちや周りの人を傷つけていないかを同和教育講演会やグループ懇談会を通して振り返ることが大切な時間となっています。継続していくことが私たちにできることだと考えています。

わたしは、ナイスカードを友だちからもらって、自分にはよいところがあるということがわかりました。

はじめは、自分によいところがないと思っていました。でも、みんなからナイスカードをもらって、自分にはこんなによいところがあるのだと気づくことができ、とてもうれしい気持ちになりました。また、友だちにナイスカードをわたして、友だちによいところをたくさん伝えたいと思いました。なぜかという、友だちにわたすと、とてもよろこんでくれたからです。

「だれにでも、よいところがたくさんあるんだな」と思いました。友だち一人ひとりによいところ一つひとつあり、みんながったよいところがあると知れてよかったです。ナイスカードができて、よかったと思っています。

これからも、友だちのよいところも自分のよいところも、たくさん見つけていきたいと思いました。



町内学習懇談会

川の下町

令和7年11月22日

「わたしの未来は わたしが決める」

今回の町内学習懇談会は、めざめ第48集のワークシート①②③を資料として、グループ別に討議を行い、発表いただきました。

- ワークシート①『言えませんでした』
- ワークシート②『そっとしておけば いいのに』
- ワークシート③『学べば気づくことがある
学ぶとわかることがある』

議題ごとに発表いただき、また個人の思いも発表いただいて大変実のある学習懇談会になったように思います。今後、もっと多くの町民の方々に参加いただく学習懇談会にして行きたいです。



鳩が森町

令和7年12月6日

過去と他人は変えられないが “未来と自分を変えられる”

DVD「家庭から振り返る人権」を視聴した後、2グループに分かれて意見交換を行い、その後グループ内で出た主な意見を発表してもらいました。

DVDの内容が生活に密着したもので、活発に意見交換が行われていました。家庭内のコミュニケーションを取ることの重要性を再認識させられました。参加者からの言葉「自分が少しずつ変わっていけばよい。他人と過去は変えられない」がとても印象に残りました。



第3講座 『部落問題とわたし』

令和7年8月6日

向野まちづくり協議会

もみやま あや
糸山 彩さん

ご自身の個人的な体験や思いを率直に語りながら、現代社会にいまも残る差別の実態と、人権の重要性を伝えることに焦点を当てて判りやすく話されました。

特に、ご自身が被差別部落出身者として、感受性が高い思春期に感じたであろう葛藤や疑問、差別に対する思いなどを語られる中で、自身の出身を知人に告白する…即ち「カミングアウト」された時の話には感慨深いものがありました。

糸山さんは部落問題のみならず、講演を通じて、参加者一人ひとりが多様な人権問題(障害のある人、性的マイノリティ、外国人)について正しい知識を持ち、差別の解消と人権尊重の意識を高めることを願っておられます。

「差別の現実から深く学ぶ」とは、差別の実態を知ることや解消することにとどまらず、自分の内にある「日常に潜む差別」を探り直し、社会との関係も含めて問い直すことが最も重要であることを学びました。

糸山さんは理論だけではなく、自分自身の体験に基づいた「差別の現実から深く学ぶ」姿勢を重視し、参加者が人権問題を「自分事」として捉えるきっかけとなる講演でした。

人権を考えるつどい①

令和7年7月18日

人権とともにある私の生き方』

老上中学校 校長 辻 大吾さん

～未来につなげる心のバトン～

辻校長は教職に就かれてから、まず滋賀県の豊郷町の中学校に着任され、その後、草津市内の中学校を中心に教鞭をとられてきました。

老上中学校で取り組まれている「スクールESD」(持続可能な開発のための教育)の中では、学校のスローガンでもある『考動(こうどう)』、『幸動(こうどう)』に重きを置かれているそうです。

「自ら考え主体的に動く力=考動」と「自他のウェルビーイングの向上=幸動」、すなわち、自分の幸せを感じると同時に誰かの笑顔のために動くこと、誰かと喜びを分かち合うこと、こうしたことを意識して『行動』できる人(創り手)を育成することが私の願いであると強く訴えられました。

国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の根底には「誰一人取り残さない」という理念があり、すべての人々の「人権尊重」が不可欠となっています。「持続可能な社会を創っていくためには、『人権』を常に意識して行動していくことが大切である」という辻校長の熱い想いを受け、これからも「人権尊重」への取り組みを継続していかねばならないという思いを新たにしました。



人権を考えるつどい②

令和7年8月19日

老上小学校 校長 上原 忠士さん

「私にできること」



日頃、先生が意識して取り組まれている児童に対する「私にできること」についてお話いただきました。

ものの見方を違った角度から考えること(リフレーミング)は、人間関係を良好なものに変え、自身にとっては苦手意識の軽減や熱意の向上などに繋がります。物事を正しく理解し、知らず知らずの偏見や思い込みを持たないよう、児童に対して働きかけておられました。

私たちも、物事を正しく理解し、偏見や思い込みに惑わされず、広い視野を持って物事を捉えるように意識したいと思います。

県外研修 「奈良県人権センター」

令和7年11月20日



今回の講師、西畑 保さんにお話を聞かせていただきました。

西畑さんは、映画化された『35年目のラブレター』の主人公のモデルとなった方です。戦時中に生まれ、貧しい家庭の事情から十分な教育を受けられず、文字の読み書きができないまま大人になりました。その後最愛の妻と出会い、結婚。夫婦として長く寄り添って生きてきました。長年支えてくれた妻に感謝の気持ちを伝えたいと、定年後に夜間中学に通い、文字をいちから学びました。35年目にして初めてラブレターを一生懸命に書き上げ、渡されたそうです。



西畑さんの人生は、教育や人との出会いの大切さ、中でも長年連れ添ったパートナーへの感謝の深さを教えてくれました。

午後は西畑さんの恩師深澤先生の案内で奈良公園周辺のフィールドワークを行いました。「名勝 旧大乘院庭園」では、日本を代表する文化である「日本庭園」は、被差別の立場にあった人たちによって作り出されたという説明を受けました。奈良公園内にある「影向(ようごう)の松」の祭礼場では、被差別の方がまつり行列の先頭に立ち、人々を穢れから守る役割を担って来たというお話を聞かせていただきました。

誰かに言われたから学ぶのではなく、何かを変えたいと願い、そして「無知・無関心・無自覚」から脱却することを意識して、今後も人権学習に取り組んでいきたいと思います。



「奈良県人権センター前」



「名勝 旧大乘院庭園」

編集後記

人と人がつながって生きていく中で、周りにも自分にも優しいまなざしがあふれる社会になることを願っています。そのために同和・人権学習を重ね自分磨きをしていきましょう。 M

